



## 仲良しの姉が発病するまで〜現在

(きょうだいの立場) Y・M

「あなたに私の声、聞こえてないよね？」

新型コロナウイルスで自粛中の2020年5月初旬、私の4歳上の姉(以後、M)から夜中にこんなメッセージが残されていました。

私はやっとの思いで自分の子どもたちを寝かしつけたところだったので、Mの電話には気付

かずに朝を迎え、このメッセージを聞いても何のことかまるでわかりませんでした。

この時、幻覚、幻聴、妄想、思考伝播というあらゆる陽性症状に脅かされていたと知ったのは、Mの主人から連絡を貰った時でした。

もう一人の姉のスマホにはMから別れのメッセージが送られてきたそうです。

その日、Mが一番信頼している友人の家にMの主人が連れていったところ、この友人が、緊張と興奮が混ざり、人が変わったMにただ一言、「病院で診てもらいなさい」と言ってくれました。

こうしてやっど病識を得たM

は連休が明けてすぐに、実家の母と主人に連れられて、心療内科へ行きました。

### 過去の出来事を振り返ると

Mが調子を崩したのは、2016年のことです。私たち姉妹は仲が良く、お互い頻繁に連絡を取り合っていました。その年の1月から急に連絡がなくなり、いつの間にか電話番号とメールアドレスも変えていたので、Mの主人に確認したところ、Mが集団ストーカーに狙われていると言いき出し、警察にまで行くようになったと聞きました。

このような妄想は過去にもあり、二十代で一人暮らしをした時は、アパートの住人が麻薬の

売買をしていると大騒ぎし、両親が早急に引越させさせたこともありました。

これらの経緯から、私は即座に統合失調症を疑い、Mと家族に話しましたが、その時M自身がカウンセラー的な仕事をやっていたこともあって、病気ではないと言い、なかなか通院に繋げることができないまま4年が経ち、今回のような激しい症状に至りました。

Mは4人兄妹の3番目で、とても器用でした。完璧主義で神経質な反面、時間どおりに行動できないルーズなところもありました。思春期はずっと自称・自律神経失調症でした。Mのすぐ上の兄とは毎日のように喧嘩

をしていました。

プロの音楽家をめざし、一心不乱に練習、勉強をしてきましたが、一番大切な時期に父の会社が倒産し、さらに父が病に倒れ、家族の生活が一変しました。家族皆が打撃を受けましたが、最も経済的支援を必要としたMが一番生活苦に陥ったかもしれません。やっと経済的に安定してきた時には他の兄妹には子どもがいたことも彼女にとってはものすごくストレスになったのかもしれない。

できることは傍にしていること

病気の発症原因は様々でしょうが、今できることは、私たちが知り得なかったMの辛い思い

を聞き、ただ傍に<sup>そば</sup>いることだと思います。

現在は陰性症状により、抑うつ状態が続いていますが、担当医から身体を動かすように言われているので、私とM、そして上の姉は時間が合えば一緒に散歩をしています。Mは病前のようによく笑い、しゃべることはありません。甲高い笑い声は聞けないのかと寂しくなることもあります。が、ふわふわと、本人にしてみたら闇の中を手探りで歩いている状態かもしれません。隣で静かに悟った顔で歩いているMを見ると、病気になつても、MはMのまま、ただそこに来てくれる幸せを感じます。